

「東北学生卓球連盟に所属して」

東北学生卓球連盟 幹事長 大畑建樹

この度は「日学連アゴラに」文章を掲載していただきますことに、この場を借りて感謝申し上げます。

コロナウイルスの影響で Stay home が叫ばれていた時期に入学し、初めての一人暮らしや部活動、アルバイトなど様々な経験を経て、学生生活も最終学年の1年間を残すのみとなりました。この節目の時期に、私自身の東北学生卓球連盟での活動について振り返り、得た学びや思いについて書き連ねてみようかと思えます。

私が学連に所属して常に感じていたものは、「責任」です。多くの時間を卓球に捧げその成果を発揮する場である大会、人によっては全国大会などにつながり将来を左右しかねない大会を主催することに、大きなやりがいとそれを圧倒的に上回るプレッシャー、責任感を感じていました。元々の心配性な性格も相まって、自分のミス一つが大会の失敗につながるかもしれないと考えると仕事に妥協はできませんでした。

なかなか楽しくも辛くもあった学連での活動でしたが、この活動は自分に多くの学びをもたらしてくれたと思います。わきあがる不安やプレッシャーは、綿密な準備と対策をすることが効果的であること、選手ではない運営の立場に立ったからこそ裏方の苦労や工夫を知ることができたこと。いざ文字で起こすと当たり前のことではありますが、実際に体験・経験し苦楽を感じながら得たこれらの学びは、自分にとって非常に価値のあるものだと思っております。

また余談ではありますが、東北学生卓球連盟の活動においては人に恵まれていたと強く感じています。聡明かつ優しい先輩方、ユーモアがありムードメーカーな同期、にぎやかながらメリハリのある可愛い後輩達、お忙しい中、時間を作って協力してくださる理事やOB・OGの方々、協力的な姿勢をとって下さる企業・行政の方々など、多くの人に助けられての活動であったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです

改めて東北学生卓球連盟での活動を振り返って、今後の人生においても忘れることのない、非常に思い出深く、そして誇りに思える経験・仕事であったと思います。社会に出た後もこの経験・学びを生かし活躍できるように努めてまいりたいと思います。

ご清覧頂き、誠にありがとうございました。